opusdei.org

年間第10週日曜 日・B年80悪の根 源

一原初の正義と聖性の状態における人間の本性。 一 アダムにおけるすべての人間の連帯。原罪とその結果の伝達。 罪との戦い。 一 人間の諸現実を再度、神に方向づける。

2024/04/28

年間第10週日曜日・B年

80悪の根源

- 一原初の正義と聖性の状態における 人間の本性。
- アダムにおけるすべての人間の連帯。原罪とその結果の伝達。罪との 戦い。
- 一人間の諸現実を再度、神に方向づける。

80.1正義と聖性の本来の状態の人間性

も深い神秘を浸透させることができ るように人間を高めるように定めら れました。これほど、人間本性に備 わったものの中で素晴らしい授かり ものはありません。このために、神 は、聖化する恩恵³と超自然的な徳 と賜物を惜しげなく人間に与えられ ました。神は、人間を聖性と正義を 持つものとして創造され、超自然的 に振舞う能力をお与えになりました ⁴。 恩恵によって、霊魂は、人間で あることをやめずに神化されます。 その変化は、火の中に入れられると 白熱の光となって輝き、それ自体が 火のようになる鉄の変化に比較され ます。このたとえはまだ十分ではあ りません。恩恵は、火が鉄に引き起 こしたものより、もっと深い変化を 霊魂にもたらすからです。

さらに、神は、死、情欲、無知の免除など外自然の賜物と称される無償の賜物でアダムの本性を豊かになさいました。本来の正しい状態での人

間性の高潔さは、創造主に対する人 間の意志の完全で自由な服従から生 じるものです。これらの賜物に強め られていれば、人間は、自分が知っ ていることにおいて欺かれず、すべ ての過ちを免れています。人間の身 体は自分の力によるのではなく、霊 魂に印された超自然的な力のお陰で それが神と一致してさえいれば、腐 敗を免れ永遠を享受しました⁵。 神 は、アダムに全人類を見ておられま す。本来の正義と聖性の賜物は、一 人の人間にではなく、アダムの後も 子孫に伝えられるという原則によ り、全人類に与えられました。 私 たちは皆、神との友情のうちに生ま れ、霊魂と身体を神から授けられた 完全さで飾られ美しくされていたは ずだったのでしょう。その瞬間が訪 れた時、神は、一人ひとりを恩恵の うちに強め、苦しみもなく死の瞬間 を被ることもなく、この世から連れ 去ったことでしょう。神は、このよ うに、天国で永遠に続く幸福を楽し

ませるために来られたことでしょ う。

これほどまでして、神は、最初のの音を注ぎ込まれたの善を注ぎ込まれたるの音を注ぎ計画によるたけるの計画が成就によるため自まが思恵ないよって、神はることになりでは、私たちにはからないのは、私たちに願ったが受ける多られまりで、私たちに願ったが、永遠のおいでは、からなければならないのは、つまりこの世です。

80.2 すべての人はアダムの仲間 であること。原罪の伝えられること とその結果。罪との戦い

私たちは啓示で、神の似姿として創られた人間に原始義(もともとの義の状態)と完全性が与えられていたとは言え、人間が自由を付与された被造物である限り、他の霊的存在と

同じく、最初に自由に関してテスト を受けないわけには行きませんでし た⁷。神は、一つの条件を人間に与 えました。善悪の知識の木の実を食 べてはならない。それを食べるなら 必ず死ぬだろう⁸。 この掟は悲しい ことに破れられたことを私たちは聖 書で知っており、今日、ミサの第1 朗読⁹では、人間が置かれた状態に ついて読みました。蛇に化けた悪魔 が神の命令に従わないように最初の 女性をそそのかし、神の掟に従わせ ないようにさせたのでした。女は木 の実を取って食べ、一緒にいた男に も渡したので、男も食べました¹゚。 神への従順は打ち破られました。諸 能力の間の調和は崩壊し、聖性と原 始義は失われ、不滅の賜物も失いま した。そして、「死の力をもつも の上に服従し始めました(ヘブライ 2・14)。 つまり悪魔に、です。ご まかしの罪によって、アダムの全人 格は、身体と霊魂に関するすべてが 悪い方に変わりました¹¹。 彼は、楽 園から追放されました。たとえ、人の間の本質に楽園にいたとも、ときの固間ものが残っていたとしいことをうっていたとしいっと良いは、としても厳しいで書に出の内にのでは、としても厳しいでは、でするからです。歴史は、初い世代を超えて伝えられまれて、会にといった。の世代を超えて伝えられまれた信仰というです。

原罪の事実と、それが個々の人間の 霊魂の内奥に引き起こす葛藤は、証明できる真理です。信仰はその根限を説明します。そして、私たちは皆、その結果を経験します。神のこれを知らされるこれらのこれを知らされる、人間の経験と一致する。人はせられる、聖なる創造主に源を発するはずのない多くの悪のもとに自分が思えているのがわかります13。恩恵 がなければ、人間は、人としての尊厳を取り戻す力がないことに気づきます。

教皇パウロ六世は、人間は、堕落したと持ち、人間が以前与える。 た恩恵の賜物を持たないので、す。 うちに生まれると教えていままの うちに生まれるの自然の力は傷りの本質に の力に服従していて付随の が、原よって人間の本性に特って、 は、ではないであるかのように、する であるかのように、すべるの中に見出されます」4。

アダムの中には全人類が持つ神秘的な仲間意識があります。それは、人は誰でも、その中で自分は一人の人間だとみなすことができるほどまでに、人祖から受け継いでいる同じ本性に共に結ばれているということです¹⁵。最初の不従順以前のアダムにおいて、すべての人間を一つにした

連帯の恩恵は、罪における連帯に変わりました。元々の聖性(原始義)の状態がアダムの子孫に伝えられたはずだったのが、その代わりに無秩序が伝えられてしまったのです1.6。

悪がこの世と私たちの内にもたらした光景、また理性に従わない身体の傾きと本能を見ると、啓示にある深い真理が良く理解できますし、唯一の真の悪であり、この世に存在するすべての悪の根源である罪と戦うようになります。

「あなたとわたし、そして全人類の 罪と惨めさが、こんなに数多いと は。『わたしは咎のうちに産み落と され、母がみごもったときも、わましは罪のうちにあったのです』(詩編 50・7)。原罪に汚れた人間の一人と して生まれたわたし。知りつつ、望 みつつ、犯してしまった自罪の 数々。この汚れからわたしたちを めようと、イエスは自分を低くし 奴隷の姿をとられた(フィリピ2・7参照)。主の御母でありわたしたちの御母でもある聖マリアの胎内で人となり、三十年間、聖ヨセフと共に大勢の人々と変わりなく働かれた。教えを垂れ、奇跡をなさった。しかし、そのお方にわたしたちは十字架で報いたのだ。痛悔しないでいられようか」¹⁷。

80.3人間の全現実を再び神に向ける

神は、私たちの人祖を楽園から追い出しました18。人間が神から離れた北郎でこの世に来たしるしとしての世に来たしる的なイブに、超自然的とれました。超自然とイブにはなかわけに、彼らは、子孫に現るのはずだったはである。最初である。と述るからに、個人的であるうと社会にはないない。個人的であるうと社会にはないないない。

的であろうと、すべての悪は、人祖 にその根源を見出します。たとえ、 洗礼が原罪と洗礼を受ける前に犯し てきた個人的罪の罪と罰を完全にゆ るすとしても、洗礼は、罪の結果か ら彼を解放せず、過失や情欲、死に 依然として支配されたままです。

「原罪は高慢の罪でした」¹⁹。私た ちが社会で、個人の生活で、すべて において、神の教えを守ろうとすれ ば、必ず私たちはそれぞれ皆これと 同じ高慢の誘惑に陥ります。「あな たは神のようになるだろう」²⁰。五 感と能力の乱れた人間が耳にするの はまさにこの言葉です。初めのよう に今もまた、多くの場合、人間は自 分を善と悪の間の調停者にする自治 権を追い求めて、創造主への愛と従 順からなる偉大な最高善を忘れてし まいます。彼が、平和と本能と理性 の調和、そして他のすべての良いも のを取り戻すのは創造主においてし かありません。

世間の只中で行う使徒職は、私たち 一人ひとりとその行い(法律や教 育、その他の仕事)を、創造主との 関係において正当な場へと導くこと でしょう。神が、国や社会のある所 に現存される時、人々とともに生き ることがより人間的になります。世 の中を荒廃させ、社会のより進んだ 正義の成就を妨げる争いを解決する には一つの方法しかありません。そ れは再び神に近づき、改心を実現さ せることです。すべての悪は、人々 の心の中にあります。それこそ癒さ れるべきなのです。原罪つまり、今 日も人間や社会の内で働いている原 罪についての教えは、要理教育とあ らゆる種類の養成(形成)において 根本的に重要な点で、決して無視さ れるべきではありません。時に深く 混乱しているように思われるこの世 の中で私たちが直面しているのに気 づいても、私たちは、ただ腕を組ん で何もできない状況に圧倒された人 のように、肩をすくめていることは

できません。大きな決心をすることは必要ありません、おそらくいずれにせよ、大きな事は私たちの関心事ではないでしょうから。そうではないでしょうからの看く範囲内に置かれた事柄での自分の役割を果たさなければなりません。そこにキリスト教的な方向性を付与するためです。

並外れた恩恵と特典によって、純潔のままの受胎の最初の瞬間から、いる野師の最初の瞬間からいる至聖なる御母マリア²¹は、私たちめるは、私の表情がある。何よりも、聖母は、私たちを強めてくださるでしょう。

¹ 創世記, 1:26

² 第 2 バチカン公会議,教会憲章, 2 参照

- ³ PiusXII, Humani generis, 1 2 August 1 9 5 0 参照
- ⁴ トレント公会議, Session V, can. 1 参照
- $^{5}_{-}$ 聖トマス,Summa Theologie, I 9 $^{7}_{-}$,1
- ⁶聖トマス,Summa Theologie, I 4,1
- ⁷ ヨハネ・パウロII世, Address, 3 September 1986
- $^{\circ}_{-}$ First Reading of the Mass, 創世記 $^{\circ}_{-}$: 1.7
- 9 創世記, 3:9-15
- 10 創世記3:6
- 11 トレント公会議, Session V, can.
- $^{rac{1}{2}}$ Council of Orange, can. 2 参照

- 13 第2バチカン公会議,現代世界憲章.13
- $\frac{14}{2}$ パウロ 6世、Creed of the People of God, 1 6
- ¹⁵ 聖トマス,神学大全I-II,163, 1
- ¹⁶ 聖トマス,神学大全I-II,8 1, 2
- 17 聖ホセマリア・エスクリバー,『十字架の道行』,第4留,2
- 18 創世記, 3:23
- ¹⁹ 聖トマス, opcit, II-II, 163, 1 参照
- 20 創世記, 3-5
- Pius IX, Ineffabilis Deus, 8
 December 1 8 5 4

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-X-nichi-B/ (2025/11/28)